



こんにちは ひぐち英明 です

337号 2018年7月15日 連絡先：日本共産党左京地区委員会 Tel761-6341
左京生活相談所 Tel781-6622

ホームページ：

西日本豪雨・左京区の全学区で避難が呼び掛けられる

被害実態をつかみ早急な対策を

7月4日から7日まで降り続いた大雨により、左京区内のすべての学区に避難準備や避難指示が出され、各学区に避難所が設置されました。被害も相次いでいます。



裏山が崩れ床下まで土砂が流れ込む

「裏山が崩れて土砂が床下まで流れ込んだ。住み続けるためにはどうしたらいいか困っている」と話されている方、避難所では、「自主防災会で避難所を運営しているが、せめて1人くらいは市の職員が避難所において欲しい」と話されていた自治連の役員さん。こうした不安の声や要望に京都市は早急に応え

れました。

る必要がありま

す。

7月9

日の総務

消防委員

会で、私

は、実態

の把握を

早急に行

い、対策

を立てる

こと、そ

のため

にも災害対

策の人員

体制を増

やすことを求めまし

た。避難所への職員の

配置を求めたことに對



鞍馬温泉の200mほど北で道路の路肩が崩れた現場を井上参院議員・みつなが府議と調査

する答弁は、「今後検討したい」とのことでした。

大阪北部地震・共産党市議団が現地を調査し第2次申し入れ

被災住宅への支援制度適用などを表明

6月18日の大阪北部地震で大きな被害を受けた、伏見区淀地域に、共産党市議団として調査に入りました。



被災者から聞き取り
写真右下は崩落した外壁

外壁の崩落、瓦のずれ、家の中でも壁が崩れる、お風呂のタイルが割れるなど、被害の大変な実態を目の当たりにしました。

住民のみなさんからの反応は、大きく分けて2つ。一つは行政に何を言ってもムダ、とあきらめてしまっているケース。市に相談したけれど、職員から何も支援策がない、と言



共産党市議団で第2次申し入れ

われた方も複数いました。もう一つが行政に報告することすら思いつかないケースです。

これらの実態調査をもとに、市に第2次申し入れを行うとともに、総務消防委員会へ、実態の把握と対策の具体化を求めました。地震から3週間ほどしてようやく耐震改修助成の柔軟な運用、被災住宅への支援制度（被災者住宅再建支援制度）の適用などが打ち出されています。さらに対策の強化を求めて行きます。

ひぐち英明 com.
ホッと・コム

先日の大雨の際に、妻の実家のある津山市でも床下浸水の被害が発生しました。

長野で一人暮らしをしている長女（大学1年）から、「京都は大丈夫か」と連絡がありました。長女は津山の祖父母にも電話をしていました。

実は6月に、私の実家のある群馬県で震度5の地震があった時にも、長女が群馬の祖父母のところに電話していました。

津山と群馬の両方から我が家に、「心配して電話をかけてきた」と連絡があり、そこで私も長女が電話をしていたことを知った訳ですが、ばあちゃん達にも嬉しかったです。

さて、次は嬉しくないニュースです。大阪北部地震が起ると、京都市内の被害状況もはっきりしない中、地震発生から2時間後、市長と防災担当副市長がそろってパリの式典参加のために日本を離れたことに、市民から怒りの声が出されています。

さらに、先日の大雨で市内中に避難指示が出され、市民が不安な時間を過ごしていた7月7日の夜、市長が市内で開かれた自民党の西田三司参院議員主催の納涼ビアパーティに出席していたことが、西田氏のホームページに載っていました。

各地の各種団体のみなさんも市職員も市民の安全確保のために徹夜で必死になっていた時に、ビアパーティとは・・・市長は市民や市職員のことなど全く眼中にないようです。